

## 自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 SIN7

テーマ 仲間と語り合い、学び続ける教師になろう

～実践に生きる計画書づくりを通して～

### 取組のポイント・成果

#### 【取組の内容とポイント】

- (1) 現状の確認及び情報共有
  - ・指導と評価の年間計画、単元計画をもとに、各校の現状を確認する。
- (2) 実践交流を含めた研修会の実施（全2回 構成員以外の職員にも公開）
  - ・8月19日（土）13：30～15：30「特別支援学校における授業づくり」
  - ・12月17日（土）13：30～15：30「実践交流及び講師による助言」（講師：福岡教育大学 教育学部 教授 一木薫先生）
- (3) 外部研修会への参加
  - ・8月16日（火）10：30～15：40「言語・コミュニケーションの発達とその理解」「障害の重い子どもの発達とその授業」
  - ・8月21日（日）10：30～15：40「教育課程の基礎と授業づくり」「各教科等を合わせた授業の変遷と課題」
- (4) その他
  - ・書籍や研修資料等の回覧及び配付による自主研修
  - ※ミーティングや研修会はすべて zoom、webex を利用した。

#### 【成果】

研修会や実践交流を通して、「ふだん話す機会がなく何となく過ぎてしまっているが、実は大切なこと」について改めて見つめ直すことができた。

- ・「教育内容」ごとに児童生徒の実態を捉えることができているか？（「日常生活の指導」や「生活単元学習」は指導形態である。含まれている教育内容を考えて指導計画を作成しているか。また、それを明確に示す指導計画の様式となっているか。）
  - ・学習指導要領を正しく読み込めているか？（「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」の事項を理解して、教科等の指導を自立活動に替えているか。）
  - ・教育課程を見直しの際に問われる「系統性」とは何か？（どうなっていたら「系統性がある」と言える指標が学校ごとにあるのか。）
  - ・実施する予定のカリキュラム、実施したカリキュラム、達成したカリキュラムは異なる。それらを踏まえて新しい計画を立てることができているか？
  - ・指導計画の評価に「様子」が書かれていないか？（指導計画の評価と通知表で保護者に伝える活動の様子の記述内容は同じでよいのか。）
  - ・教育課程「B表」はなぜ作成しているか？（「B表」は教育課程ではない）
  - ・「朝の会はなぜ行っているのか？」
- これらの課題は、短時間では解決には至らなかったが、講師の助言や構成員の意見交流により、今後も問い続けるきっかけとなった。

## 今後の課題

本グループのテーマは「仲間と語り合い、学び続ける教師になろう」である。なぜ、このテーマにしたのか。「働き方改革」という言葉が飛び交い、時間の有効活用、業務の精選等がどこの学校でも話題になる昨今、「語り合い」が少なくなってきたように感じたからだ。構成員に「みんなで考えたい話題があるか」を尋ねるとたくさんの意見が出てきた。しかし、「じっくりと話をしたいが、なかなか時間がもてない」のが現状である。ただ、やはり時間は無限ではなく、大切に使用したい。今回の取組でも話し合う時間は限られていたが、皆が課題や目的意識をもって参加することで、とても貴重な時間となった。今後も「働き方改革」そして一人一人のワークライフバランスと向き合いながら、教員として、そして一人の人として自己実現できるよう自己研鑽を重ねていく必要がある。その際、やはり語り合える仲間は不可欠であり、それが、集まった構成員だけでなく、もっと身近なところに広がっていくとよいと感じている。本事業で行った研修会には構成員以外の職員の参加もあった。「ふだん話せず何となく過ぎてしまっているが、実は大切なこと」をつぶやける仲間が増えるとよい。